

翔陽高等学校 平成30年度学校評価計画表

1 学校教育目標
心豊かで、活力にあふれた個性ある生徒を育成し、将来、世界中で活躍できるグローバルな視点と能力を持つ、故郷熊本を支える地域人材の育成を目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 総合学科だからできる幅の広い教育活動を通して、グローバルな視点と能力を身につけた地域に貢献できる人材を育成する。 (2) 進路目標達成のためにキャリア教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成する。 (3) 全ての教育活動を通して規範意識を高め、自信と誇りを持った生徒を育成する。 (4) 人権尊重の精神を養い、互いの個性を尊重し、自他を大切にすることを生徒を育成する。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	総合学科の特色づくり	総合学科の工夫・改善	○将来に向けた総合学科の在り方の検討	○企画委員会で、新学習指導要領及び新しい入試制度に対応した教育内容について検討	B	○「平成31年度教育課程研究指定校事業」の指定を受けるべく、教務部を中心として取り組む事で「教科等横断的な視点に立った資質・能力を育むための教育課程の研究」を主題にして「自ら気づき、考え、探究する」生徒の育成を目指した教育課程の工夫改善ができるように準備を行った。結果は指定校見送りとなったが新教育課程導入に向けては、計画に準ずる取組を行っていく。
		総合学科のPR	○定期的な情報の発信	○HPの随時更新 ○パンフレットや広報誌の活用	B	○多くの行事、取組がなされているがHPに適時、掲載されていない、授業を含め生徒の日頃の頑張りをHPで紹介する習慣及び迅速な決裁のシステムを構築する必要がある。 ○パンフレット作成においては、プロジェクトチームを編成して作成しているため中学生に好評なものがあった。また、中学校説明会におけるプレゼンテーションも好評であった。
	キャリア教育の推進	望ましい職業観・勤労観の育成	○進路意識の啓発	○社会人講師による講演会の実施 ○進路体験発表、キャリアガイダンスを実施 ○保護者向け年次集会等で啓発活動を実施	A	○「くまもとと教育の日」に「思うは招く」と題して、植松努氏の講演会を行った。生徒の講演後のアンケートを見ると「前向きになった」「しっかり目標を持ちたいと思う」等、多くの生徒に良い影響を与えることができた。
	キャリア教育のシステム	○将来を見据えた適切な科目選択	○系列ガイダンスを実施	A	○系列ガイダンスでは、体験を含めて3年次生から1年次生へ科目選択のアドバイスを行い、系列集会では、回数を増やすなど3年生から2年生への進路アドバイスを充実させることができた。	

		ム化	○科目「産業社会と人間」の再点検及び活性化 ○インターンシップの活性化	○体験型学習の充実 ○自らの進路選択との関係性を明確にした班別プロジェクトの実施 ○企業開拓及び全職員の協力による事前事後指導の充実 ○「キャリアファイル」の有効活用	A A	○班ごとに分かれ、アポイントメント取りの練習から企業様への質問・まとめ・発表まで班員と協力することができた。今年も、文化祭（翔陽祭）において年次代表が、質の高い発表を行った。 ○事後アンケートでは、「将来について考える機会となった」と回答した生徒が98.3%、「県内企業の理解や魅力を知る機会となった」が92.3%と回答があったことから県内企業の理解と社会人となる勤労観・職業観を育成することができた。
	開かれた学校づくり	学校評価の着実な実施	○デュアルシステム、総合的な学習の時間の活性化 ○評価資料の収集と課題の明確化	○成果発表会の開催「総合的な学習の時間」で発表会を実施 ○全系列でデュアルシステムを導入 ○生徒・保護者へのアンケート実施（11月末まで）、回収率95%以上にする ○教育懇話会委員による学校関係者評価を2回実施	A B	○今年度も3年次の各系列の代表が全校生徒へ「総合的な学習の時間」での成果発表を実施した。新たな取り組みとして、系列集会において2年次生に詳細な成果発表会を実施することができた。 ○15事業所に、全系列から計43人の生徒が受け入れていただいた。そのうち、72%の生徒（31人：就職8人、進学23人）が実地訓練先と関連のある進路先に内定をいただいた。デュアルシステムでの経験が、進路を選択するうえで、生徒の決意を強固なものにしている。 ○アンケートの回収率は、生徒99.3%、保護者97.6%と目標を達成することができたと同時に貴重な意見を頂いた。また、生徒で0.02、職員で0.03ポイントの評価の上昇が見られたが、保護者で0.03ポイント評価を下げた事には、真摯に受け止め来年度の学校運営に生かしていく。 ○教育懇話会委員会を2回実施し、委員から貴重な意見を頂く事ができ、今後の学校運営の参考となるものであった。
学力向上	学力の向上	アクティブラーニング（AL）型授業の推進	○AL型授業実践者の増加	○授業研究のための職員研修の充実 ○AL型授業の実施状況調査と課題の分析	B	○授業研究のための職員研修は年度当初に予定した回数実施することはできなかった。 ○生徒による学校評価では「生徒が主体的に活動する時間が確保されている」の項目が0.1ポイント伸びており、AL型授業の浸透が窺える。
			○公開授業校内参加率90%	○研修立案や授業改善のヒントを配布	B	○年2回の公開授業習慣以外にも各教科系列の研究授業等への授業参観は積極的に行われていたものの、公開授業校内参観率90%には届かなかった。しかし、校外からの学校関係者や保護者による授業参観者数は、学校説明会や講演会等の行事と抱き合わせで授業参観を設定したため、昨年度を大きく上回り、73名（昨年度11名）であった。
	学習習慣の確立	○家庭学習1時間＋ α	○学習時間調査や職員への課題調査に基づき、改善策を提案・実行	C	○生徒による授業評価では「課題や宿題の量は十分である」の項目で0.1ポイント伸びているが、保護者による授業評価では「家庭学習への取組」の項目は昨年同様2.6ポイントであった。	

			<ul style="list-style-type: none"> ○グローバルな視点と能力を持つ人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○調査結果は個人の学習履歴としてファイリング、個人面談週間や家庭訪問などで活用 ○台湾修学旅行で現地高校生との交流会 		<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査前期間（第1回、第4回）では、全学年の1日の平均家庭学習時間は97.4分であり、約78%の生徒が60分以上の家庭学習に取り組んでいた。一方その月に定期考査が実施されない期間（第2回、第3回）では、同様の平均家庭学習時間は45.8分であり、約34%しか目標の60分以上の学習に取り組んでいなかった。次年度の課題である。 ○時間の有効活用、自分に合った学習スタイル確立の一助とすべく3年次生2名の学習モデルをプリントにまとめ、全校生徒に配付した。
		読書習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書の定着 ○3年次生の読書率の向上 ○図書館の復旧 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書週間の設定 ○朝読書コンクールの実施 ○朝読書用図書 of 積極的購入 ○書籍内容紹介のPOP作成 ○倒壊書架の補充 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○普段の朝読書に加え、朝読書コンクールの実施により3学年全体の取り組みを高めることができた。 ○図書委員全員が書籍内容紹介POPを作成し、図書室に展示し、投票により優秀作品を選出した。また、文化祭（翔陽祭）では、展示を行った。 ○学校行事や季節に合わせた特設コーナーの設置、読書週間のスタンラリーを行い、生徒の図書館利用の増加に貢献した。 ○木製書架1台を補充した。書庫の復旧はまだ不十分であり、これからである。
進路指導	進路保障	進路目標の達成	<ul style="list-style-type: none"> ○就職目標 進路目標の100%達成 県内就職率85%以上 公務員35人以上 ○進学目標 国公立大学5人以上（高専含む） ○故郷熊本を支える地方創生への積極的推進 ○高い目標へ挑戦及び個性を生かした推薦入試への挑戦 	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員面接2回実施 ○専門系列と2・3年次との進路会議 ○模擬面接の充実 ○作文・小論文指導の充実 ○進学係・公務員担当による面談の充実 ○関係諸機関（役場、県北本部）との連携 ○年次主任と進路指導主事との定例会を開催し、目標を共有化 ○個性を活かした大学推薦入試への挑戦 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員面接を2回実施できた。管理職、主任主事面接もさらに実施できた。 ○専門系列と進路会議については主任主事が個別に系列主任との会議が初めて持てた。 ○模擬面接・作文・小論文指導について教職員全員で行うことができた。 ○就職希望者100%就職決定した。県内就職率86%達成。 ○熊本県内企業の求人活動がバブル期を上回る状況で、公務員希望者が減少し、県外の公務員に合格しても県内の優良企業の募集が11月、12月そして現在も続いていることから、県内民間企業に移行した生徒が多かった。しかし、今年度も、延べ45人の合格者を出すことができた。 ○四年生国公立大学については2名であった。
		早期離職・上級学校退学の防止	<ul style="list-style-type: none"> ○適応指導の充実 ○進学就職内定者指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○熊本しごとコーディネーターとの面談充実（2回）でミスマッチの無い受験 ○生徒の目線にたった離職・退学防止のための年次と連携したLHR指導 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○熊本しごとコーディネーターとの面談（2回）を実施し、成果を上げることができた。また、進路指導部に相談に来る生徒も増加し、夏休みに進路指導室で求人票を見る保護者様も増加してきた。

		熊本県・県北本部、地元2市2町、大津町、大津町企業連絡協議会との連携、上級学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○地方自治体の地方創生へのプランニング、積極的協力参加・協力 ○保護者の進路意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパスへの参加 ○上級学校訪問等の充実 ○効果的・継続的な地方創生を地方自治体と探る。 ○年次保護者会等を行い保護者の理解を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○県内の大学・短大・専門学校のオープンキャンパス参加や本校での進路ガイダンスなどを行い、生徒の意識向上を図った。 ○昨年3月から大津町企業連絡協議会で2年次生就職希望者（約140名）に対し企業見学会を開始した。生徒に非常に好評でありマッチングができた企業もあった。 ○保護者から、私立大学や専門学校の情報や特に就職の企業情報が足りていないという意見が多いので、町や県とタイアップしバスツアー等を利用したり計画したりする必要がある。また、保護者への確実な周知も必要。
		基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○教務部との連携（目標を設定した効率的な学習） ○図書部との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○チャレンジタイムの充実 ○進路指導部から、全校集会等において読書の意義等について説明 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○チャレンジタイムについては開始して3年経過し、定着した。しかし、行事の都合でカットされることもあり、今後とも常に生徒に目標を持たせ、継続した取り組みになるようブラッシュアップが必要である。
生徒指導	生活指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○整容指導の徹底 ○始業時間の厳守 ○挨拶の徹底 ○無断アルバイトの根絶 ○盗難件数0 ○二重ロック率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の共通理解での連携と生徒・保護者への周知徹底 ○年7回の容儀検査の実施 ○年3回の生活指導日の実施 ○段階的指導の推進 ○登校指導・巡回指導 ○全校集会での啓発、担任指導の充実、保護者への連絡・啓発 ○交通委員会による啓発と点検 ○外部関係機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○整容指導に関しては、大幅に乱れている生徒は少ない。しかし、継続的に指導をしていく必要はある。 ○無断アルバイトは6人、アルバイト申請生徒は21人であった。（昨年度3人、23人） ○盗難が2件発生した。 ○自転車の二重ロックに関しては、95.8%と高い値であったが、100%に向けて今後も指導にたっていきたい。
		交通安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全に対する意識の向上 ○事故件数0 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全講話・通学方法別集会の実施 ○単車通学生への実技講習及び安全指導 ○自転車通学生への安全指導 ○危険予知能力を向上させるためのLHRの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○交通講話や通学方法別集会を行って指導を行ったが、12件の登下校中の事故が発生した。 ○スマートフォン使用・イヤホン着用などの危険運転については、厳しく注意喚起を行い違反者は減少した。
		自主自立を養う生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動の活性化 ○さまざまな活動への意欲的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒総会の充実 ○体育大会・文化祭（翔陽祭）等の学校行事の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒総会も充実し、体育大会や文化祭（翔陽祭）では、生徒が主体的に活動する姿が度々見られた。

	ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	○積極的なボランティアへの参加	○ボランティア委員会活動の活性化 ○タイムリーな活動紹介と募集	B	○タイムリーな活動紹介を努めていたつもりだが、学校評価アンケートで、昨年度より数値が下がっていたため、更に丁寧な紹介を心がけていく。
	部活動の推進	心身の健全育成	○部活動加入の推奨 ○自尊感情の育成 ○奉仕精神の育成	○部活動見学の実施等により、加入率80% ○キャリア教育との連携 ○部活動実績のHPでの紹介	A	○部活動加入率84%であった。 ○馬術部やフェンシング部など、地域との連携を図りながらの取り組みを行った。
人権教育の推進	人権意識の向上	確かな人権感覚の育成	○身の回りにある不条理な差別に目を向け、人権問題についての正しい理解と認識を深める。	○定期的な職員研修の実施 校外研修への積極的な参加 ○生徒人権集会、人権教育LHR、人権教育講演会の実施 ○相談室だよりの発行による啓発	A	○解放保護者会との交流学習会（教育集会所学習会）で自分を語り、自己の解放に繋げることで互いに学び伝え合うことができた。 ○生徒人権集会で、熊本県人権子ども集会の実行委員を務めた生徒の活動報告を行い、全校生徒で人権意識の高揚を図ることができた。 ○水俣病差別の実態について、語り部から学び、自らの課題として受け止めることができた。
	教育相談	教育相談活動の充実	○一人ひとりの生徒のニーズに応じた支援体制の確立と強化 ○悩み相談体制の充実	○職員同士の情報共有体制の強化 ○保護者、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、専門機関との連携 ○個別の教育支援計画・指導計画の策定	A	○毎週水曜1時間目、養護教諭・年次主任と情報交換を実施した。必要に応じて管理職も参加した。 ○生徒理解研修を実施し、課題を抱えた生徒への支援体制の充実を図った。 ○「心と体の振り返りシート」を3回実施し、その結果を見て、スクールカウンセラーによる面談を行った。継続的な面談は、生徒の心の安定に繋がった。 ○学校が把握している発達障がいのある生徒個別の教育支援計画・指導計画を策定して、一人ひとりの生徒のニーズに応じた支援を行った。
	命を大切にす る心を 育む指 導	自他を尊重する心と社会規範を遵守する生徒の育成	○生命の大切さ」の指導の徹底 ○生徒の自発的・自立的な道徳的行為の涵養への取組	○道徳教育全体計画の検証 ○命を大切にす る観点からの授業実施 ○生徒・保護者への広報・啓発	B	○キャリア教育を通して、社会貢献の意義を学び、また、ボランティア活動で自他を尊重し、思いやる心を培うことができた。 ○全ての領域・分野で継続した取り組みが必要である。

いじめの防止等	安心安全な学校生活	いじめを生まない環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策へ向けた組織対策の確立 ○重大対応マニュアルの職員への周知 ○保護者との連携強化 ○いじめ未然防止と早期発見 ○SNS被害防止への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○年7回いじめ防止対策委員会の開催 ○年2回職員研修の実施 ○家庭訪問及び定期的な個人面談の実施 ○いじめ実態把握調査の実施（6月、11月にアンケート実施） ○スクールカウンセラーによる教育相談の活性化 ○外部専門家からの指導助言 ○生徒会による啓発活動 ○匿名アプリを利用した早期発見 ○SNS被害防止のための講演会や全校集会での啓発 ○保護者集会での啓発 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止等対策委員会については計画に実施することができた。委員会でいじめを認知22人、（昨年度20人）したうち経過観察を要する生徒への対応、保護者との連携については迅速に対応することができた。全職員で情報を共有することができた。 ○スクールカウンセラー、教育相談担当、養護教諭、担任、年次との生徒の情報共有等の連携を図ることができた。 ○スマートフォン使用についての講演会を開催するなど、集会等でSNSの利用の仕方について丁寧に話をしたが、SNS絡みのトラブルが多い。
保健管理	健康教育	健康な体と豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察の充実 ○健康教育の充実 ○健康診断後の受診率向上を目指す。 ○よりよい生活習慣の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察の結果を基に教育相談等と連携し、対応について話し合う（週1回実施。確実な記録） ○生徒・保護者への情報の共有化と個別面談の実施 ○生徒保健委員会活動の活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○欠席が続いている生徒などの情報を共有し、対応について定期的に検討できた。しかし、いまだに学校に登校することができない生徒がいる現状もある。 ○健康診断後の受診率は、全体で37.4%と上昇することができた。受診の必要性和体調管理について、機会がある毎に生徒に伝えることができた。 ○保健便りコンクールでは今年も優秀賞をいただき、保健委員同士が協力して活動できている。
教育環境整備	安全管理	救急救命職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○救急救命の実技講習計画と実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急時のフローチャートに沿ってシミュレーションを実施 ○エピペンについて職員へ周知 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○AEDを用いた救急蘇生法職員研修を実施、職員全員がエピペンを触り、アナフィラキシーショックへの対応についても学んだ。育友会より3台目のAEDを購入していただき、生徒・職員への周知徹底をはかった。
		施設設備の安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○危険箇所への確実な対応 ○安全点検の確実な実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導部・保健部と事務部が連携して対応する ○「安全点検週間」を設け実施率の向上を目指す ○点検結果をまとめ、回覧し、必要に応じ全職員へ周知する 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○従来は職員中心で行っていた点検を、本年度は生徒委員会の要望で、「生徒による安全点検」として1～2ヶ月に1回のペースで実施した。そのため、左記方策とは異なる形となった。次年度は職員・生徒委員会連携による、危険箇所の改善・改修100%を目標に保健部・事務部と連携して行いたい。
	ハザードマップの作成	<ul style="list-style-type: none"> ○環境美化委員会活動で確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒環境美化委員会活動の活性化 ○委員会生徒による校内・周辺の安全点検 ○校内危険箇所をマップ化して報告 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○作成のために安全点検・危険箇所の把握は行ったが、本年度中のマップ作成に至っていない。次年度も目標とするかを現在検討中である。 	

	学校版 環境IS 0の推 進	環境美化の 徹底と環境 問題への意 識高揚	<ul style="list-style-type: none"> ○5S(+2H)活動の充実 ○ゴミの減量化 ○可燃ゴミ重量昨 年比 10%減 少 ○節電・節水(省エネ 推進) 3~10%の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ○整理・整頓・清掃・清潔・躰 (+2H:ほめる・励ます) ○ゴミ分別の徹底 ○ゴミ持ち帰り活動 ○環境美化コンクールの実施 ○「環境美化だより」発行 ○掲示物等の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○5S+2H活動は関係分掌や職員の助言により充実していた。 ○ゴミ減量化・分別・持ち帰り活動は、以前から生徒・職員の意識高揚が確立しているため徹底できた。 ○可燃ゴミ重量は昨年度比10%減には届かなかったが、約5%減少した。 ○節電・節水(省エネ推進)は、生徒委員会活動の中で掲示物や表作成が目標通りでき、削減率がどちらも15%以上達成でき充実していた。
地域連携 (コミュニ ティ・ス クールな ど)	学校行 事を通 じた連 携	学校行事等 の開放と交 流	○育友会との連携	○一人一役活動(文化祭(翔陽祭)、 長距離走大会、登校指導、校外補導等)	A	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一役の希望がCS委員などに偏り、役員を選出する担任の負担が大きい。一人一役へ参加できない保護者へ対応が課題。「夏休み清掃」など考慮したい。 ○文化祭(翔陽祭)食品バザーでは昨年の2倍の利益があり、長距離走支援に運用された。豚汁支援では豚汁約2100杯を調理した。バザー委員の参加率が高く、運営がスムーズであった。 ○年3回の一斉登校指導及び校外補導を通して、生徒の安全確保と同時に保護者が翔陽生の登校状況の実態を把握することで、家庭での話し合いや学校への理解を促すことができた。
			○同窓会との連携	○学校支援、登校指導、後輩への激励 ○海外学習の支援	A	<ul style="list-style-type: none"> ○県外の部活動大会や海外派遣プログラムの生徒に対して助成金をいただいた。 ○文化祭(翔陽祭)で今年から販売ブースを作り卒業生が作った農産物など多くの物品が販売され、連携が深まった。
			○地域住民との連携	○文化祭(翔陽祭)での物品販売 ○親子乗馬教室 ○地域花壇の管理	A	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭(翔陽祭)で物品バザーとして保護者からの物品提供品を販売している。益金は豚汁支援へ。 ○大津町役場との連携で夏休みに親子乗馬教室を開催し、乗馬体験を実施した。 ○美咲野小学校と年2回花作り教室を開催し、交流を深めている。
			○近隣の小学校・大津 支援学校との交流 及び共同学習	○農作業体験学習 ○共同学習	A	<ul style="list-style-type: none"> ○毎年、室小学校との交流学习で、野菜の栽培や収穫を行い、生徒・児童の交流を深めている。 ○大津支援学校との共同学習では、翔陽の森で「小さい秋」みつけた活動をとおして交流を深めた。
	保護者 との連 携	学校理解の 推進	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者会等への出席率向上 ○保護者への連絡の徹底 ○保護者との情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者のニーズと学校の思いを考慮し、日程や内容の充実を図る ○学校安心メールの活用 ○PTA会報の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○育友会総会の参加率は、著名人の講演を含めて実施したが約38%と昨年とやや昨を下回った。総会の内容や時間帯の設定など計画を見直す点がある。 ○保護者への緊急連絡など目的に応じて、随時利用している。委員会活動についても今後メールでの連絡を検討したい。また保護者の100%登録を目標としたい。 ○年3回の発行で、計画的に発行ができています。計画的に編集会議が開催され、記事も充実している。

	地域との連携	防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○防災型コミュニティ・スクールの発足 ○大津町と避難所等に関する協定締結 ○学校安全総合支援事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民との協力体制確認 ○協定締結と避難所としての環境整備 ○防災教育の実施 ○学校安全の取組に関する公開授業の実施 ○緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練の実施 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校安全総合支援事業においては、大津地区県立3校で協力し、町との避難所協定から文部科学省での成果発表と目的達成ができた。 ○室北区や大津町の防災訓練に参加したことで町の取り組みを理解でき、区長や地域防災担当者、住民とのつながりを持つことができた。 ○大規模災害発生時に本校が避難場所となるため、大津町の防災担当者と連携をとり、災害時の初動対応などさらに把握する必要がある。 ○熊本地震に係る全校集会、シェイクアウト訓練、職員向けの防災研修を実施した。防災教育充実のため、来年度も継続して実施していきたい。 ○10月に1年次を対象とした防災LHRを公開授業として実施し学校防災教育指導の手引きをもとに避難所運営ラーニングに取り組んだ。 ○11月に実施した避難訓練では避難行動、態度が大変良好で、例年よりスムーズに実施することができた。時間帯を変更して実施することが課題である。
--	--------	---------	---	--	--

4 学校関係者評価

- (1) 生徒が最近、顔を上げて、明るく挨拶するようになった。マナーを持ち、挨拶できる生徒の育成を望む。
- (2) 在校生が落ち着いているので、郡部の高校としては、入学者選抜の倍率も高く、良いイメージがある。それも、先生方が土曜日、日曜日を含めた指導の成果である。しかし、職員アンケートを見ると先生方の負担が多いように感じられる。育友会として、先生方の負担を減らす取組をしていきたい。
- (3) 多様化する社会で強く生きていくためには、学校、保護者、地域企業、町が今まで以上に協力していく必要がある。
- (4) 学校として、グローバルな取組をされているので、生徒の英語力が向上しているように感じられた。今までは、インターンシップを受け入れてこなかったが今後は受け入れを検討したいと思った。
- (5) 中学生が翔陽高校を希望するようになってきている。当初は熊本市内を希望していた生徒が「大津町内中学校対象の体験学習会」に参加をして、翔陽高校に希望を変更した生徒がいた。中学校でも高校で頑張ることができる生徒の育成を行っていきたくないので、今後も続けていきたい。
- (6) 2年次のインターンシップ、3年次のデュアルシステムをした生徒が専門学校に進学した。その生徒が専門学校生としてもインターンシップに来てくれた。そして、今後は大津町の保育士になりたいとも言ってくれている。学校の取組が将来に繋がっている。
- (7) グローバルな生徒の育成において、海外の文化に触れ、何もなかったところから生み出すイマジネーションを生み出す教育が素晴らしい。
- (8) 教職員が一体となっていると感じた。町としては、地元の高校に通学して地元就職してもらいたい。そのためには倍率が高い翔陽高校に合格できるように中学生を指導したい。他の自治体に負けない取組を行い、目的を持った児童、生徒の育成に取り組む。
- (9) 警察としてもより良い町作りをするために、あらゆる面から考えを生み出す生徒の育成は心強い。また、外国からの観光、移住者も多くなっているため、語学力のある生徒を育成してもらいたい。
- (10) 相対的に「学校評価アンケート」の平均値を上げる取組。「学校評価」にある「C」をなくす取組。「B」を「A」にする取組をしていただきたい。

5 総合評価

- (1) 学校教育目標 : 心豊かで、活力にあふれた個性ある生徒の育成するため「自ら気づき、考え、行動する」をサブスローガンとして、各学年の指導目標として、「くまもと教育の日」の講演等、年度当初より生徒へ投げかけを行ってきた。その成果は、文化祭等で生徒の自主性の向上として感じられた。
- (2) 重点目標 : 1年次の「班別プロジェクト」、2年次の「インターンシップ」、3年次の「デュアルシステム」と3カ年を通じたキャリア教育ができた。また、1年次の海外への修学旅行を始め、その他多くの海外研修を体験することができたことで、グローバルな視点と能力を育成することができた。
- (3) 自己評価総括表 : ①アンケートでは、「将来について考える機会となった」と回答した生徒が98.3%、「県内企業の理解や魅力を知る機会となった」が92.3%と回答があったことから県内企業の理解と社会人となる勤労観・職業観を育成することができた。
- ②3年次の各系列の代表が全校生徒へ「総合的な学習の時間」での成果発表を実施した。新たな取り組みとして、系列集会において2年次生に詳細な成果発表会を実施することができた。
- ③大津町企業連絡協議会で2年次生就職希望者(約140名)に対し企業見学会を開始した。生徒に非常に好評でありマッチングができた企業もあった。
- ④ゴミ減量化・分別・持ち帰り活動は、以前から生徒・職員の意識高揚が確立しているため徹底できた。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 「平成31年度教育課程研究指定校事業」の指定は外れたが、教務部を中心として「教科等横断的な視点に立った資質・能力を育むための教育課程」に立った生徒の育成を目指した教育課程の工夫改善ができるよう取り組んでいく。
- (2) 授業を含め生徒の日頃の頑張りをHPで紹介する習慣及び迅速な決裁のシステムを構築する必要がある。委員会の設置を検討する。
- (3) 引き続き、家庭学習の習慣化を基盤とした学力向上の具体策を策定し、生徒の進路保障の実現を目指す。
- (4) 集会等でSNSの利用の仕方について丁寧に話をしたが、SNS絡みのトラブルが多い。SNSに関する教育の充実を図る。
- (5) 育友会総会の参加率の向上を目指し、総会の内容や時間帯の設定など計画を見直す。
- (6) 業務の効率化と教職員の負担感軽減を図るために学校改革の視点を入れる。